

志賀原子力発電所 2号機

定例試験中の非常用ディーゼル発電機 A号機の自動停止について

定期検査中の志賀原子力発電所 2号機において、4月11日10時10分頃、定例試験のため起動した非常用ディーゼル発電機 A号機（以下、「非常用 D/G (A)」という。）を所内電源系統に並列したところ、非常用 D/G (A) が自動停止しました。

このため、同日10時10分に原子炉施設保安規定に定める運転上の制限*1を満足しない状態であると判断し、原子炉施設保安規定に基づく必要な措置を実施しました。

その後、非常用 D/G (A) の機能確認を実施し、設備に異常がないことを確認した後、同日18時17分に運転上の制限の逸脱から復帰しました。

非常用 D/G (A) が自動停止した原因は、非常用 D/G (A) を所内電源系統へ並列した後、最初の負荷出力調整において出力の増加操作が不足し、逆電力リレー*2が動作したことによるものです。

今後、非常用 D/G 並列後の出力が不足しないよう出力上昇の手順を改善し、確実に実施することとします。

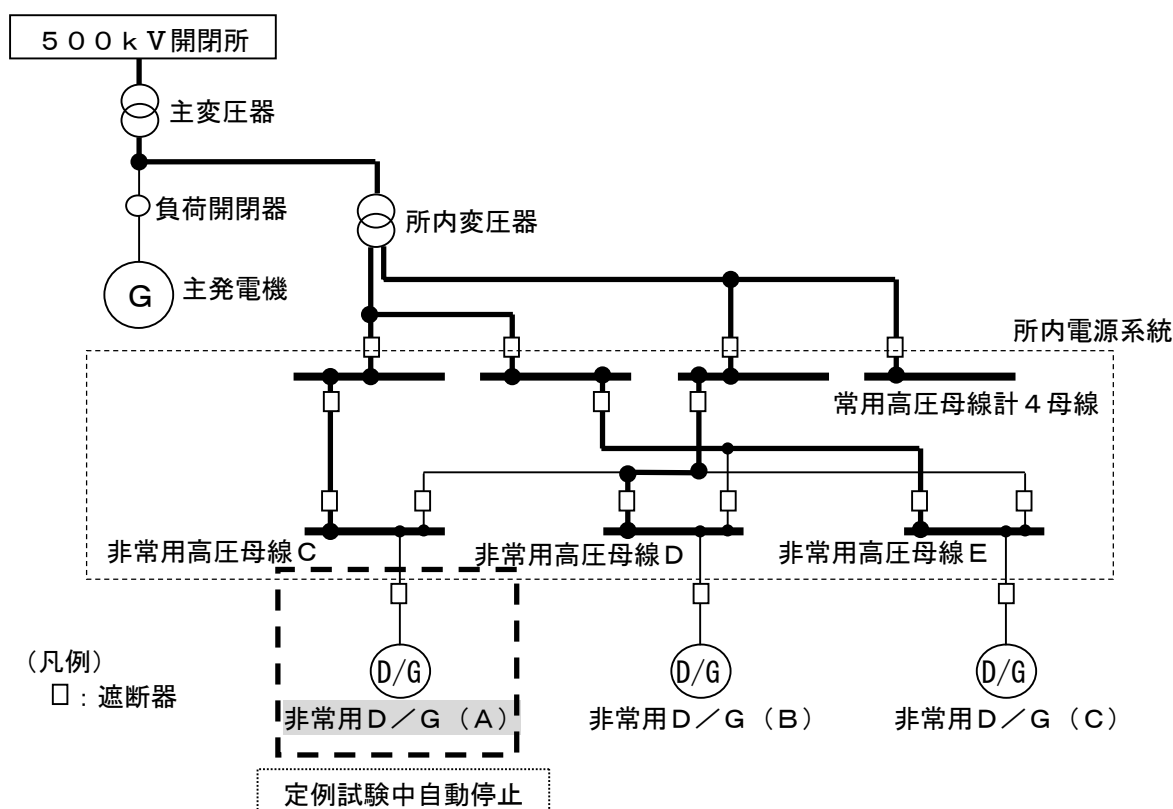
外部への放射能による影響はありません。

* 1 : 運転上の制限

原子炉施設保安規定では、原子炉の運転に関し、「運転上の制限」や「運転上の制限を満足していないと判断した場合に要求される措置」等を定めている。今回は、非常用高圧母線 C に接続する非常用 D/G (A) が動作可能であることが要求されており、自動停止によりこの要求を満足しない状態となった。このため、非常用 D/G (A) を動作可能状態に復旧するなど原子炉施設保安規定で要求される必要な措置を実施した。

* 2 : 逆電力リレー

所内電源系統から非常用 D/G 側へ電力が逆流入した際に、発電機保護のためのリレーが動作し、非常用 D/G が自動停止することになっている。



系統概要図